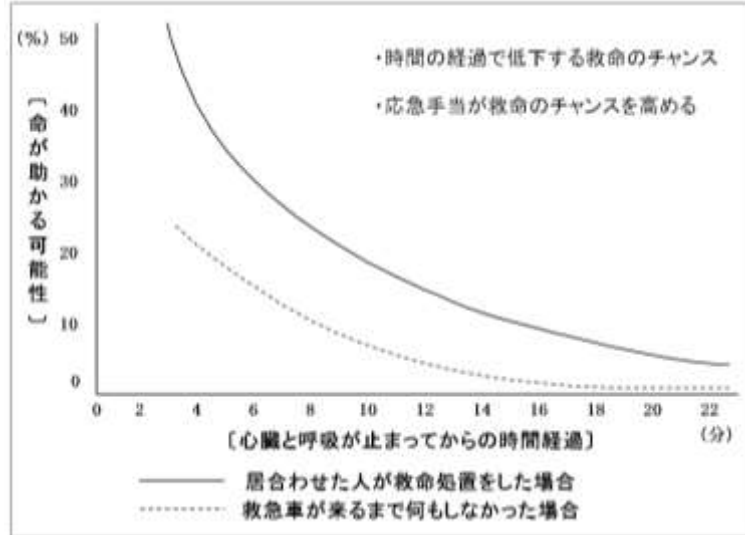


勇気をもって胸骨圧迫を開始しよう！

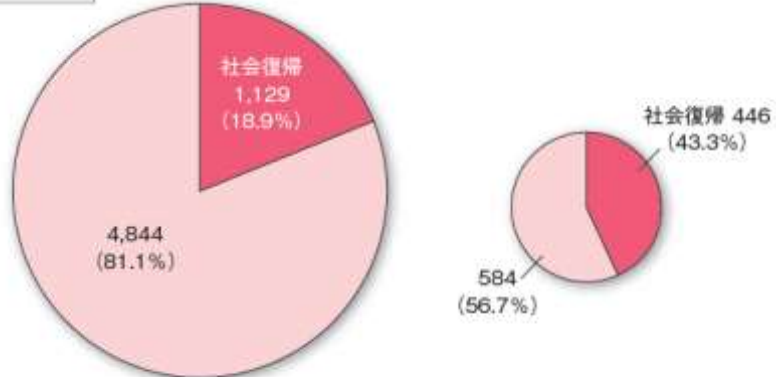
救急車が来るまでに

ひとたび心肺停止（呼吸や脈が止まった状態）に陥ると救命の可能性は急激に低下しますが、適切な応急手当を速やかに行うことで救命の可能性を約2倍に保つ（図1）ことができます。しかし、救急車が到着するまでの間、「どうしていいのかわからない」といった理由などから応急手当が実施されていないことが少なくないのが現状です。



救命の可能性と時間経過（図1）

市民により目撃された突然の心停止について、バイスタンダー（そばに居合わせた人）による迅速な一次救命処置（心肺蘇生と電気ショック）が行われた場合と無かった場合では、社会復帰率に2倍以上の差（図2）があり、市民による一次救命処置の有無が傷病者の救命、社会復帰の鍵を握っているのです。益田広域管内でも実際の救急現場で心肺停止の傷病者にバイスタンダーが救命処置を行い、救急隊に引継ぎ救命、社会復帰した事例が報告されています。



救急隊が電気ショックを行った場合 (5,973 例) 市民が電気ショックを行った場合 (1,030 例)

電気ショックを救急隊が行った場合と市民が行った場合の1ヶ月後社会復帰率（図2）

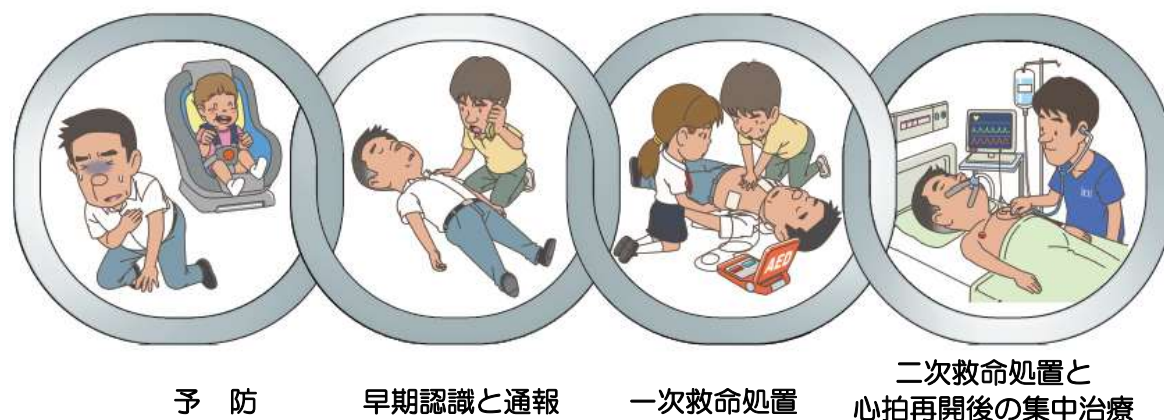
図、絵 救急蘇生法の指針 2015（市民用）より引用

乳児は、成人に比べ呼吸のトラブルが原因で心停止に至ることが多いため、胸骨圧迫に人工呼吸もあわせた心肺蘇生法が望ましいと考えられます。

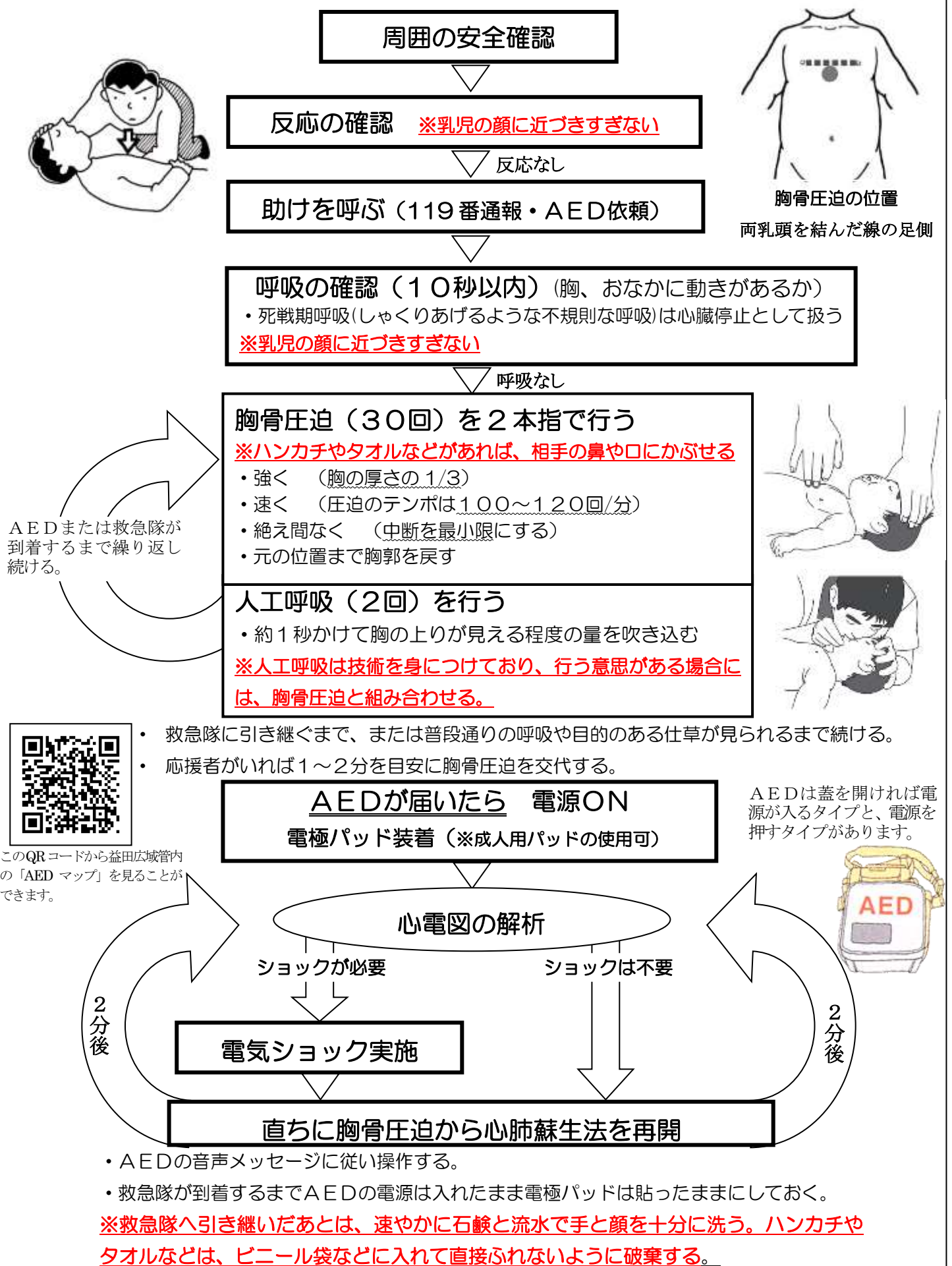
救命の連鎖

救命の連鎖とは、傷病者の命を救い社会復帰に導くための一連の行動を表しており4つの輪（鎖）から成り立っています。このうち最初の輪（鎖）は「予防」です。

乳児は呼吸障害で心肺停止に陥る可能性が高いため、まず未然に防ぐことが何よりも重要です。不幸にも心肺停止状態に陥った場合は、119番通報を行いすばやく人工呼吸を併せた胸骨圧迫を行いましょう。



AEDを使用した救命の流れ（乳児）



AEDまたは救急隊が到着するまで繰り返し続ける。



- 救急隊に引き継ぐまで、または普段通りの呼吸や目的のある仕草が見られるまで続ける。
- 応援者がいれば1～2分を目安に胸骨圧迫を交代する。

このQRコードから益田広域管内の「AEDマップ」を見ることができます。

AEDは蓋を開ければ電源が入るタイプと、電源を押すタイプがあります。